

公益財団法人 J K A 「2024年度福祉車両の整備補助事業」における 自己評価会議報告書（議事録）

社会福祉法人阿南淡島会

- 1 開催日時 2025年10月16日（木）午後4時から
- 2 開催場所 社会福祉法人阿南淡島会・淡島学園会議室
- 3 出席者 理事長、自己評価委員（法人監事、法人評議員、法人事務長）、
サービス管理責任者

4 審議内容

（1）実施状況の説明

自己評価内容を審議するに当たり、福祉車両導入の経緯・過程、利用状況、職員や利用者の意識調査の結果などについて、次のとおり説明。

① 福祉車両の導入の経緯と過程

淡島学園では、通所者の生活介護の受入れも行っており、送迎ができない保護者に代わって、学園が3方面に向けて送迎サービスを実施している。このうち、小松島方面の送迎サービスに使用している「トヨタハイエース・ワゴン」は、2010年度にJKAの福祉車両整備補助事業を活用して購入したもの。購入から13年が経過する頃から故障が頻発するようになったため、2024年度にJKA福祉車両の整備補助金の交付決定を受け「トヨタハイエース・ワゴン」の導入を進めてきた。ところがトヨタグループのエンジンの不正認証発覚で出荷が約1年停止された影響を受け、当該車両の納車が2025年度にずれ込むこととなり、今年9月22日ようやく納車の運びとなった次第。

② 利用状況

補助により整備した福祉車両に係る利用状況（2025年9月～10月）

運行期間	実運行日数	延べ利用者数	利用回数 (往復で1回と計上)	運行距離
09/22～10/16	17日	60人	17回	1,478km

小松島方面の送迎サービスの利用状況

区分	2024年度実績	2025年度の実績		備考
		旧車(4/1～9/22)	新車(9/22～10/16)	
送迎サービスの利用状況	231 日	113.5 日	16.5 日	1日の往復の送迎を「1」と計上
	日平均 3.19 人	3.38 人	3.61 人	

この度整備した福祉車両について、当初の予定よりも約1年遅れの納車となり、9月22日に供用開始した。新型コロナ等の感染危機も収まり、送迎サービスの延べ利用者数も増えつつある。

③ 広報活動

- ・2024年09月24日 法人のホームページに掲載
- ・2025年09月30日 保護者向け「園だより」に掲載（約100部発行）
- ・2025年10月21日 週刊「福祉新聞」に掲載

④ 職員のアンケート結果

9月22日以降、学園において送迎サービスを担当する生活支援員等15名を対象にアンケート調査を実施（回答率100%）。今回の福祉車両配備に13名（86.7%）は満足しているが、不満と答えた2名は、「慣れていないので運転しづらい」「車体が大きく狭い場所に入りにくい」と回答。また、「職員から見た利用者の反応」について、11名（73.3%）は「大変喜んでいる」と回答。

⑤ 利用者の声

9月22日以降、小松島方面の送迎サービス利用者5名にアンケート調査を実施。「新しい車に乗った感想」について、「乗り心地が良い」「もっと乗りたい」「静かできれい」といった前向きな回答が寄せられた。また、「これからも乗りたいか」との問いには、4名が「どんどん乗りたい」と回答。

(2) 総合評価について

事前計画に記載した目標値の進捗状況について、上記（1）で説明した内容に基づき、評価委員3名の意見などを勘案し、次のとおり評価することとした。

当学園では、通所により「生活介護」を受ける利用者のうち、家庭の事情で家族等が送迎できない方には、学園車により送迎サービスを実施。近年、学園では送迎を希望する方が多いため、3台の送迎車を用意して対応している。今回、補助を受けて更新するトヨタ ハイエース・ワゴン（乗車定員10名）は多くの方の送迎希望にお応えすることができることから、事業実施の成果があったと判断できる。

また、発生確率が高まっている「南海トラフ大地震」に伴う大津波が発生した際、自立歩行できない利用者を高台に運ぶために有益な車両であり、災害対応での活用も期待されるところである。

なお、学園の活動状況を対外的に発信することが求められていることから、学園のホームページや保護者向け情報紙「園だより」などを活用して、これまで以上に情報発信するよう心がけることが重要である。

以上

今回の自己評価会議の審議内容及び結果を明確にするため、代表者が署名する。

自己評価委員代表